

モニタリングサイト1000の概要

モニタリングサイト1000とは

平成14年3月に策定された、我が国の生物多様性保全の基本的な考え方や計画を示した「新・生物多様性国家戦略」の中で、今後5年間の計画期間に着手・推進すべき7つの提案（絶滅の防止、自然の再生、移入種対策など）が示されており、その1つとして、より質の高い自然環境データを継続的に収集・蓄積する「モニタリングサイト1000」が挙げられている。

このモニタリングサイト1000（正式名称：重要生態系監視地域モニタリング推進事業）は、全国各地に1000か所程度の定点を設定し、様々なタイプの生態系（森林、草原、里地、陸水域、干潟、砂浜、小島嶼、サンゴ礁等）をモニタリングしていくというものである。長期継続的なモニタリングで得られたデータを分析することにより、生物種の減少など、自然環境の異変をいち早く捉え、迅速かつ適切な保全対策につなげることが可能となる。

生物多様性センターは、平成15（2003）年から、この「モニタリングサイト1000」に着手し、全体の枠組み、調査対象種及び調査手法の検討、並びに調査サイトの設定等を進めて来ている。

調査サイトの設置とデータ収集体制

- ・我が国の自然環境の動向を把握するため、森林、里地などの生態系タイプごとに、全国的な地域区分を考慮しながら調査サイトの設置を進めており、平成19（2007）年度までに設置を完了する予定である。
- ・自然環境の調査や野生生物の保全に関する研究者や地域の専門家、NPO、ボランティア等とネットワークを構築し、その参加協力により長期継続的なデータ収集を行っていく。
- ・上記の調査関係者との間に情報の収集・提供システムを構築することにより、収集する情報の精度を保つとともに、迅速な情報の収集及び利用を進めていく。

調査成果の蓄積と活用

- ・収集された情報は生物多様性センターにおいて蓄積・管理し、逐次公開するとともに、5年ごとに総合解析を行う予定である。
- ・解析結果は、ホームページ等を通じて広く公開していく。これにより、国はもちろん、自治体、NPO 団体、研究者、学校などにおいて幅広く活用されることを期待している。